

# 千年の森便り No.167

2017.06. 29

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

### 6月25日(日) 雨

参加は秋元、伊藤、鶴沢、坂本、成沢、根本、福島、松田、真鍋、村野の10名。本降りの雨の中、参加会員みな雨具で完全装備して、ニホンジカ生息調査やヒメコマツ植栽地の整備、植物やきのご観察に精を出しました。午後雨も降りやまないため、予定していた水辺清掃など中止して早々に島を出て清和自然休養村管理センターで雨宿りして昼食後、7-8月の活動計画など相談しました。(真鍋)



### ○ニホンジカ生息状況調査

雨が降る中でしたが、予定どおりニホンジカの調査を行いました。今回は、7コースのホテイ岬でシカ1頭が目撃されました。明るい茶色の夏毛で、大きさは80cm程度、場所はホテイチクの保護柵の中でした。シカは、その後、保護柵のすき間から柵の外へ出たようです。久しぶりの目撃でした。(福島)

### ○ヒメコマツ植栽地の刈り払い

貴重なヒメコマツがつる草や生長の早い他の樹木に埋没しないように、夏に刈り払いの手入れが必要です。一般の植林地に比べれば比較にならない狭い範囲ですし、10人近い人手をかけたので30分ほどの作業で済みました。あと数年すれば下草の勢いもなくなる筈ですから、この作業も楽になり、最終的には不要になります。私が中学、高校の頃は植林が盛んで、夏休みのアルバイトはもっぱら下草刈でした。炎天下で大鎌を振っていると汗が吹き出し喉はからから、それが乾燥すると首筋や衣服に塩の結晶が付くほどの辛い



い作業でしたので、25日のような雨中の作業は大歓迎でした。今はエンジン付きの刈払機を使うのが一般的ですが、夏の厳しい気象条件下での過酷な作業に変わりはありません。木材の市場価格が低迷している現状で林業従事者が減少し、植林地の手入れが行き届かないのも分かります。(坂本)

## 誕生日の花

千年の森活動に向かう為、早朝のラジオ番組を聞きながら車を走らせていたら、この日の誕生日の花がオカタラノオと言っていました。日当たりの良い草地を好む植物で、千年の森広場のコナラ林伐採跡地にあっただ筈と思い探すと案の定、程よい咲き具合でした。花言葉はやさしい風情だそうです。会員の中に6月25日生まれの人はいるでしょうか。

それにしても、伐採から短期間に多種多様な種類が繁茂して花を咲かせる植物の早業に驚きます。伐採後に風や鳥により種が運ばれてきたのか、土に埋もれて休眠していた種が芽生えたのか、毎年芽生えと消滅を繰り返していたのか考えると不思議が一杯です。(坂本)



オカタラノオ

## ○植物観察

朝、吊り橋を渡ってすぐに赤い色が目にとまりました。オニシバリがきれいな赤い実をつけていました。吊り橋の下では、花が終わったウメガサソウ、島内ではところどころにやはり花が終わったイチヤクソウが見られました。



オニシバリ

ウメガサソウ

イワガラミ

コショウノキ

巨木林エリアでは、コナラの高いところに白いイワガラミの花が確認できました。また、先日見つけた花を咲かせていたコショウノキは、今回は赤い実を着けており、雌の株であることがわかりました。近くに雄の株がある可能性があります。同エリアの植生保護柵の中では、オオバジャノヒゲが花を咲かせていました。



オオバジャノヒゲ

シャクジョウソウ

ツチアケビ

ツチアケビの枯れた花茎

禁断の岬では尾根沿いに2本のシャクジョウソウが開花していました。

5月に芽を出したツチアケビ9本のうち、6本の花茎が枯れていました。その原因を探るため枯れた花茎を3本採取しました。（福島）

## ○野鳥の記録

最近豊英島名物のトビがめっきり少なくなっています。25日の活動中、声も姿もなかったので、帰りがけに吊り橋の上に立ち止まり周囲を見回すと同時に、通りかかった何人かに声をかけて探してもらいましたが、やはり見当たりませんでした。島を離れて鎌田屋さんの近くまで来てから、やっと声を聞きました。バードウォッチングであまり注目されないトビであっても増減は気になります。

**25日の記録** コゲラ声、カケス声、ハシボソガラス声、ハシブトガラス2+声、シジュウカラ声、ヒヨドリ声、ウグイス囀り、メジロ囀り、以上8種（坂本）

## ○センサーカメラの画像

雨の中でメモリーや電池の交換をすると故障の原因になりやすいので、今回は作業していません。従って画像もありません。

## ○きのご観察

夏のキノコは、ハラタケ類のキノコ7種、これ以外のキノコは5種でしたが、珍しいキノコの発見もありました。(松田)

### ●キシメジ科キシメジ属ミネシメジ

食菌ですが、少し苦味が有るので、茹でこぼしすると、歯ごたえのある料理になります。

### ●キシメジ科ダイダイガサ属ダイダイガサ(幼菌)

カサの様子が綺麗なキノコです。

### ●テングタケ科テングタケ属ドクツルタケ(幼菌)

定番のキノコですが少し時期が早い

### ●イグチ科ヤマイグチ属アカヤマドリ(幼菌)

美味しいキノコ、最適な大きさです。

### ●ベニタケ科ベニタケ属ベニタケ属の仲間2種

名前の特定不可。

### ●カンゾウタケ科カンゾウタケ属カンゾウタケ

一科一族一種のキノコ、生食可能な珍しいキノコ、少し色抜けでしたが、試食をしてみました味は変わりませんでした。

### ●タマショレイタケ科シュタケ属ヒイロタケ(幼菌)

今年の新生菌です。

### ●タマショレイタケ科シロアマタケ属クジラタケ

今年の新生菌です。

### ●サルノコシカケ科カワラタケ属カワラタケ

今年の新生菌です。

### ●コツブタケ科コツブタケ属コツブタケ(幼菌)

元々、腹菌類が、分類の変更に従い、ハラタケ類の仲間になりました。

### ●ズキンタケ科ゴムタケ属ゴムタケ

オイル焼きにすると、独特の味がします。

(松田)



ダイダイガサ



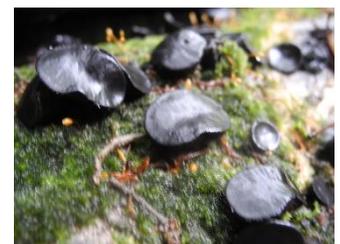
ドクツルタケ



アカヤマドリ



カンゾウタケ



ゴムタケ

## 吊り橋の上の落とし物

吊り橋上に落とし物が沢山ありました。形、大きさ、色合い、混入している植物の種子などの特徴から、この日の落とし物は3~4グループに分けられそうです。落とし主は誰でしょう?(真鍋)



## ヤマビルさん、こんにちは

シカの生息状況調査中、ヤマビルと遭遇！会いたくなかったけど…。ヤマビルの大きさは、伸びた状態で、5～6cm 程でしょうか。私が今まで島内で見た中では、1 番の大きさでした。濡れた地面を活発に動き回っていました。写真を撮るため、革手袋に吸い付かせて撮影。撮影後、手を振っただけでは革手袋からなかなか離れず、少し焦りました。

参加した会員の3名が被害者に…。(成沢)

家に帰って気付いたんですが、おへその横にヤマビルが吸血した跡……。よく見ると、血を吸ってまるまると太ったヤマビルが、そのままベルトのあたりに挟まっています。(福島)



## お知らせ

### ○夏のきのご観察会

7月26日水曜日「夏のきのご観察会ご案内」を一般の方々に配信・配布して、参加を呼びかけています。一定の人員で参加をお断りしますので、参加予定の会員は7月10日までに指定のメールまたは電話に連絡下さい。夏と秋のきのご観察会は、参加者多く人数に限りがあるため、会員でも必ず参加申し込みが必要です。

参加会員には当日のスタッフの役割分担・集合時刻等事前にお知らせします。

### ○8月の定例活動日

8月の定例活動日(8月20日(日))は、午後に中央博物館イベント「きのこワンダーランド」の講演会「ランときのこと森の不思議」が計画されています。講演に参加希望の会員もいるため、当日の活動計画を調整し、次号(No.168)でお知らせします。

## 訃報

会員の村野眞砂子様、6月17日にお亡くなりました。享年65歳とあまりに早い旅立ちでした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

村野眞砂様は当会創立時からの会員で、ご主人と一緒に活動に参加され、朗らかな笑顔が印象的な方でした。古い記録を探すと、ご主人の押す一輪車に乗ってにっこり笑っている仲睦まじい写真などが出てきました。早速ご主人にお送りし、ご霊前にお供えをお願いしました。

最近では体調が思わしくなかったとのことで、お会いする機会もありませんでしたが、会報誌「千年の森便り」の熱心な読者で、活動に参加できなくなってからも便りを丁寧にファイルして、機会を見ては眺めていたとうかがいました。

村野眞砂様、今後も天国で千年の森便りをお読みいただき、遠くから私たちの活動を見守って下さい。合掌

ちば千年の森をつくる会 事務局長 伊藤道男